

# 競泳国際大会におけるコーチ活動 － FINA チャンピオンズスイムシリーズに関する事例報告 －

Coach activity on swimming international competition:  
A case report on FINA champions swim series

小島毅<sup>1)</sup>, 奥野景介<sup>1)</sup>, 松浦由生子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

Tsuyoshi Kojima, Keisuke Okuno, Yuiko Matsuura  
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: コーチング, レース分析, レースペーストレーニング, トップアスリート

Key words: coaching, race analysis, race pace training, top athlete

## 【抄録】

競泳における国際大会の参加は、選手のみならずコーチも同様に貴重な経験を積むことができると考える。筆者は、2020年1月14日から15日にかけて、中国・深センで開催された国際大会に参加した。競泳の国際大会は、通常であればナショナルチームとして参加し複数のコーチおよびトレーナーが帯同する。しかし、本大会は、招待された選手のみ出場できる特殊な参加形態のため、筆者と選手の2名で参加することとなった。本稿では、本大会への参加を通して国際大会におけるコーチングの取り組みにおいて重要と思われる事項を報告し、今後のコーチング活動に有用な資料を得ることを目的とした。

本稿の概要については、以下のようにまとめられる。

- (1) 担当選手のレース分析の情報は、事前に確認しておくことが重要である。
- (2) トレーナーが不在となる国際大会参加は、事前にトレーナーから担当選手のコンディションの状態を把握しておくことが重要である。

これらを踏まえてコーチの役割は、客観的データを基に選手への助言および意識付けを行って選手の心理的・身体的状態を高め、高いパフォーマンスを発揮させることであると考えられる。しかしながら、それだけでは国際大会で結果を出すことに直結するとは言い難い。したがって、短期間で選手と信頼関係を築き上げるコミュニケーションスキルも重要な能力であると考えられる。

スポーツ科学研究, 18, 1-9, 2021年, 受付日: 2020年12月23日, 受理日: 2021年2月1日

連絡先: 小島毅 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

kojimatsuyoshi@aoni.waseda.jp